



コンチェルト Concerto



第6回仙台国際音楽コンクール
ヴァイオリン部門：2016.5.21(土)～6.5(日)
ピアノ部門：2016.6.11(土)～6.26(日)

Vol.6-3
(2016.3.10発行 第6回コンクール関連 第3号)

インタビュー スヴェトリン・ルセフさん (第1回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門優勝)

第1回仙台国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝のスヴェトリン・ルセフさんが、仙台フィル298回の定期演奏会に出演されるため来日されました。公演初日のリハーサル前にお話をお聞きしました。

今回の定期公演の演奏曲目であるショスタコーヴィチの1番のコンチェルトは、優勝された第1回コンクールのセミファイナルでの演奏曲目でした。当時と現在でこの曲に対する思いは変わりませんか？

私はコンクールのためにこの曲を学びましたので、特別な気持ちを持っています。とても長く難しい曲です。また20世紀の作品で最も美しく、引き締まった曲です。特に冒頭のヴァイオリンが始まる部分を演奏するたび、コンクールに出場した時のことを思い出します。この曲は、仙台でのガラコンサート以降、ブルガリア、トルコで演奏しました。それ程頻繁に演奏する曲ではありませんでしたが、今回の演奏後は、10月にパリで演奏することになっていますので、私のレパートリーの1つになりつつあると言えます。

現在は音楽院教授、コンサートマスターと多忙なルセフさんですが、次世代の音楽家を育成していく時や、コンサートマスターとしてオーケストラをまとめる時に大切にしていることは何ですか？

私は指導するということに最も関心を持っています。なぜなら次世代の人たちとのつながりを持つ最も良い方法だからです。私は彼らに独自の考え方、演奏方法を模索させ、自身で判断ができるようにしています。その結果、彼らが自立してやっていけるようになればと考えています。

彼らには常に満足求めていると思います。音楽は、終わりが無いという点で豊かなのだと思います。常にもっと良くなるという意識を持つことが一番大切で、私が指導していくときにいつも念頭にしています。

一方、コンサートマスターの場合は、指揮者とオーケストラメンバーとの間のつなぎ役的な複雑な立場にあります。常にリーダーとしてまとめ役になれるよう、メンバーからも尊敬を集められる存在でいなければなりません。

第6回コンクールのセミファイナルの課題曲にシューマンのコンチェルトが選曲されましたが。

この曲はとても美しい曲ですが、取り組んだ経験のある若い演奏家はあまりいないだろうと思います。したがって、この曲が課題曲であるという理由で申し込みを躊躇した人が仮にいたならば、残念なことです。逆にこの曲に挑戦すること

を選んだ人は、最良の選択をされたと思います。演奏することで、演奏家自身の将来に恩恵をもたらす作品だと思います。素晴らしい選曲だと思います。

音楽を離れてリフレッシュできることはありますか？

音楽から離れることは必要だとは思っていません。音楽は美しいものですし、常に必要なものです。あえて言うなら、私は走ることが大好きで、特に、郊外でのランニングは自然と一体となることができるので好きです。コンクール出場中は、広瀬川沿いを走ったりもしました。今回の来仙中には、日本製のランニングシューズを買いました。

ルセフさんが使用されているヴァイオリンは、日本音楽財団から貸与されたストラディヴァリウスだとお聞きしていますが？

現在、貸与されている楽器は「カンポセリーチェ」という1710年製のヴァイオリンです。当時66才だったストラディヴァリウスが、黄金期といわれる時期に作ったものです。300年たった現在も、このように美しい音楽を奏でるということは、素晴らしいことだと思います。慣れるまでに少し時間がかかりましたが、貴重なヴァイオリンを貸与くださっている日本音楽財団に感謝しています。

最後にルセフさんの日本に寄せる思いをお聞かせください。

日本は文化や人々の立ち居振る舞い、歴史すべてにおいて、他の文化にはない特徴があり、大好きです。そして何よりも日本食が大好きで、生まれ育ったブルガリアと現在住んでいるフランス以外で、唯一食するのが日本食です。子供達はまだ日本に来たことがありませんが、日本食が大好きです。また来日できることを楽しみにしています。

お忙しいスケジュールの中、お話を聞かせていただきありがとうございました。



スヴェトリン・ルセフ
(ブルガリア / フランス)

第1回 SIMC ヴァイオリン部門優勝。
現在はパリ国立高等音楽院の教授を務めるほか、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターとしても活躍。第5回仙台国際音楽コンクールでは審査委員を務めた。

仙台国際音楽コンクールとは

仙台藩の祖である伊達政宗が、仙台城を修築し、当時としては大変珍しい海外に使節団を出したことは有名です。『仙台国際音楽コンクール』は2001年に開府400年を記念してスタートし、3年毎に開催されているコンクールです。第4回開催の翌年、2011年に東日本大震災が起き、第5回の開催が危ぶまれましたが、関係者各位の努力で見事に開催され、東北地域の復興を大きくアピールする役割も果たしました。

才能ある若い音楽家に飛躍の機会を提供し、世界の音楽文化の隆盛と国際的文化交流を進める事を目的としています。ヴァイオリン部門とピアノ部門に分かれて開催され、セミファイナル以降はオーケストラとの共演による演奏で審査されます。オーケストラとの共演が経験できるということも、このコンクールが世界の若く才能ある音楽家に支持される理由ではないでしょうか。予選からすべて公開されているので、審査の過程を実際に体感することができます。彼らがどのように評価され勝ち上がったかを見て触れる機会はめったにありません。ぜひ会場に足を運んで体感してください。

このコンクールもすでに5回の開催を経て、入賞を大きな飛躍の機会として活躍する音楽家が増えています。コンクール後の音楽家の成長を見届け、応援することも楽しみのひとつではないでしょうか。このような素晴らしいコンクールが身近に開催されている事を多くの人に知っていただきたいと思います。

最後に、このコンクールを支える私たちボランティアの話をさせてください。300名を超えるボランティアの活動は多岐にわたります。会場受付・案内、出場者のサポート、出場者と市民との交流イベントの開催、広報活動、コンクール出場者のホームステイ受け入れ等を行ないます。コンクールを成功に導く影の応援隊として活動しています。



仙台国際音楽コンクールを支える大きな力 仙台フィルハーモニー管弦楽団をもっと知ろう!【3】

今回は、仙台フィルハーモニー管弦楽団でオーボエ首席奏者である西沢澄博(にしざわ きよひろ)さんが登場。第2回目からオーケストラの団員としてコンクールを支えてくれている西沢さん。共演者としての立場からコンクールへの想いなどをお話いただきました。

♪西沢さんがオーボエを始めたきっかけは？

中学の時、吹奏楽部を見学に行き、そのまま入部してしまいました。パートを決める日にたまたま休んだら、オーボエに決まっていた。顧問の先生と、父がアマチュアオケの仲間で、父がオーボエを吹いていることを知っていたことも要因だったのかもしれない。

♪オーボエはリードの管理が大変と聞きました。

オーボエの吹き口(リード)は葦の茎で作ります。直径が4ミリと、かなり繊細さが要求されます。通常の演奏会ではリハーサルから本番までのあいだに3~4本ほど使います。通常、私は30本くらい持っています。ただ、湿度の変化にも弱くて仙台国際音楽コンクールが開催される梅雨時は、その管理が大変です。

♪コンクール出場者とのリハーサルはどんな様子なのですか？

リハーサルは出場者ごとに行います。打合せ事項を楽譜に書き込むのですが、楽譜の中には書ききれず、バインダーの部分まで使ってしまうこともあります。出場者によって、時間いっぱいリハーサルをする方、1回だけ通して、後は個人練習をする方など様々です。リハーサルの2、3日後に本番となりますが、才能あふれる若い演奏家の皆さんだけあって、本番までにさらに弾きこんできて、ぐっと演奏が変わってくる人もいます。オケは常にアンテナを張りながら演奏しなくてはならない大変さ

もありますが、出場者にとっては、これからの音楽人生のステップアップとなる重要なステージなので、私たちも細心の注意を払います。それに短期間でこれだけの協奏曲を演奏する機会には他のオケでは経験できないこと。こちらも相当鍛えられます。

♪第6回コンクールで楽しみにしていることは？

コンクールは長丁場ですので、なんといっても体力的にしんどいです(笑)。でも、才能あふれる若い演奏家の皆さんと共演するだけでも凄いこと。オーケストラとしても課題曲ごとに時代や様式などにあわせて、出場者をサポートしていきたいです。そして同時に彼らとの共演を楽しみたいです。

4月に、仙台、東京で開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の第300回定期演奏会、そして3年目を迎える室内楽シリーズ「ミュージック・フロム・パトナ」の準備でお忙しい西沢さん。ますますのご活躍を期待しております。



仙台フィル マスコット・キャラクター
©MIKIO IGARASHI/S.P.O.



第6回仙台国際音楽コンクール 出場者が発表になりました。

第6回仙台国際音楽コンクールでは、13の国と地域から78名のコンテスト（出場者）が選ばれました。国・地域別に分けてみると、日本がヴァイオリン、ピアノ両部門を合わせて27名と圧倒的に多く、韓国が16名、ロシア8名、中国とアメリカが6名と続きます。

これまで仙台国際音楽コンクールに出場経験のある演奏家は、ヴァイオリン部門では、会田莉凡さん、千葉水晶さん、福田悠一郎さん、中村太地さん、アンナ・サフキナさん、ケリー・タリムさん。ピアノ部門では、浜野与志男さん、ファンティー・ジョーンズさん、キム・ジヨンさん、ウォン・ジェヨンさん、ウォン・ジョンホさんで、両部門を合わせると11名となります。

今回のコンクールには、世界有数の国際コンクールの入賞者も多数出場します。前回ヴァイオリン部門で4位を獲得したアンナ・サフキナさんは、2008年のオISTRAフ国際ヴァイオリンコンクール（ウクライナ）で1位を獲得。同じくヴァイオリン部門出場者のジャン・ユジンさんとシェイ・ハオミンさんは、インディアナポリス国際ヴァイオリンコンクール（アメリカ）の入賞者です。

また、ピアノ部門に出場するニキータ・ムンドヤンツさんは、2013年のヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール（アメリカ）のファイナリストです。

ヴァイオリン部門に出場する仙台出身の大江馨さんにも大いに注目したいところです。大江さんは、日本では若手演奏家の登竜門であり、数多くの演奏家を輩出している日本音楽コンクールで、2013年に第1位と増沢賞を併せて受賞されています。

他にも日本音楽コンクールの覇者が多数出場します。ヴァイオリン部門では、黒川侑さん（2006）、会田莉凡さん（2011）、藤江扶紀さん（2012）。そしてピアノ部門では、浜野与志男さん（2011）、黒岩航紀さん（2015）と、両部門合わせると総数6名にもなります。

第6回のコンクールは、今回ご紹介した方以外にも、これから才能が大きく開花していくであろう世界各国の若き演奏家たちが多数出場します。

みなさんも、是非お気に入りの演奏家を見つけて、応援をお願いいたします。



ヴァイオリン部門出場者

No.	氏 名	国・地域
1	会田 莉凡	日本
2	赤間 美沙子	日本
3	ニキータ・アクロフ	ロシア
4	青木 尚佳	日本
5	千葉 水晶	日本
6	藤江 扶紀	日本
7	福田 悠一郎	日本
8	石倉 瑤子	日本
9	ジャン・ユジン	韓国
10	メルエルト・カルメノフ	カザフスタン
11	城戸 かれん	日本
12	キム・ダミン	韓国
13	スティーヴン・キム	アメリカ
14	岸本 萌乃加	日本
15	ダニール・コーガン	カナダ/ロシア
16	倉富 亮太	日本
17	黒川 侑	日本
18	ケヴィン・リン	台湾/アメリカ
19	松岡 井菜	日本
20	中村 太地	日本
21	大江 馨	日本
22	小川 響子	日本
23	岡本 誠司	日本
24	大塚 百合菜	日本
25	パク・ソンミ	韓国
26	チェン・ユエイ	中国
27	アンナ・サフキナ	ロシア
29	ユリエ・スヴィエツェナー	チェコ
30	ケリー・タリム	アメリカ
31	タン・ヤピン	中国
32	ガブリエル・チャリク	フランス
33	友滝 真由	日本
34	坪井 夏美	日本
35	和久井 映見	日本
36	モモ・ウォン	日本/アメリカ
37	シェイ・ハオミン	中国
39	弓 新	日本
40	ザン・ヤン	中国



ピアノ部門出場者

No.	氏 名	国・地域
1	ゼバスティアン・ベラクダール	ドイツ
2	アリーナ・エレナ・ベルク	ルーマニア
3	アンナ・ブッフベルガー	ドイツ
4	イリーナ・チスティアコヴァ	ロシア
5	ヨアン・ドラゴス・ディミトリユ	ルーマニア
6	伏木 唯	日本
7	クリストファー・グッドパスチャー	アメリカ
8	ハ・ドンワン	韓国
9	浜野 与志男	日本
10	ファンティー・ジョーンズ	アメリカ
11	キム・ヒョンジュン	韓国
12	キム・ジヨン	韓国
13	キム・ソンジェ	韓国
14	北端 祥人	日本
15	グレブ・コロレフ	ロシア
16	黒岩 航紀	日本
17	イ・スンヒョン	韓国
18	イ・テヒョン	韓国
19	イム・ギウク	韓国
20	リン・ドンファン	中国
21	ラファエル・リープシュタイン	ドイツ
22	シャオユー・リュウ	カナダ
23	ジュリアン・マー	アメリカ
24	ニキータ・ムンドヤンツ	ロシア
25	ヴラジスラフ・パウトフ	ロシア
26	ルン・ズミン	中国
27	酒井 有彩	日本
28	坂本 彩	日本
29	シン・ツァンヨン	韓国
30	シン・ジェミン	韓国
31	ソン・ジョンボム	韓国
32	ゲオルギー・チャイーズ	ロシア
33	ジョンルー・テリオン	カナダ
34	ニキータ・ヴォロフ	ロシア
35	ウォン・ジェヨン	韓国
36	ウォン・ジョンホ	韓国
37	エヴァン・ウォン	アメリカ
39	エフゲニー・ヨントフ	イスラエル
40	ユン・ジュン	韓国
41	マリア・ユーリン	イスラエル

第6回仙台国際音楽コンクールチケットが発売になりました!!

3年毎に開催されている仙台国際音楽コンクール。回を重ねるごとに世界中の音楽関係者、出場者から高い評価を得ています。第6回のコンクールもまもなく開催。世界中から仙台に集まる若い音楽家の競演を予選から聴くことをお勧めします。あなたの心の琴線に触れる音との出会いがきっとあります。若い出場者にとって、来場者の皆さんの温かい拍手と応援が、何よりの励みとなる事でしょう。

セミファイナル、ファイナルと聴き続け、自分の応援する出場者が最後の舞台に残った時は、至福のひとつときを味わう事が出来るかも！コンクールならではの醍醐味です。

良い席はお早めにゲットを。チケットは好評発売中です。

◆第6回仙台国際音楽コンクール 審査日程と料金

審査日程	ヴァイオリン部門	ピアノ部門	座席	料金 (仙台市市民文化事業団友の会料金※)
予選 [ヴァイオリン部門] 独奏・室内アンサンブルと共演 [ピアノ部門] 独奏	5月21日(土) 12:30～	6月11日(土) 10:00～	全席自由 (日付指定)	1,000円 (900円)
	22日(日) 12:30～	12日(日) 10:00～		
	23日(月) 10:00～	13日(月) 10:00～		
セミファイナル (各部門12名) オーケストラと共演	5月27日(金) 18:00～	6月17日(金) 18:00～	全席指定	S席 3,000円 (2,700円)
	28日(土) 14:00～	18日(土) 14:00～		A席 2,000円 (1,800円)
	29日(日) 14:00～	19日(日) 14:00～		
ファイナル (各部門6名) オーケストラと共演	6月 2日(木) 18:30～	6月23日(木) 18:30～	全席指定	S席 3,000円 (2,700円)
	3日(金) 18:30～	24日(金) 18:30～		A席 2,000円 (1,800円)
	4日(土) 15:00～	25日(土) 15:00～		
入賞者記念ガラコンサート (各部門1位から3位) オーケストラと共演	6月 5日(日) 14:00～	6月26日(日) 14:00～	全席指定	S席 4,000円 (3,600円)
				A席 3,000円 (2,700円)

●未就学児の入場はお断りいたします。 ●開場は開演時間の30分前です。 ●コンクールの演奏時間は、出場者の人数により変更することがあります。
●車椅子席はコンクール事務局でお取扱いたします。ご希望の方は、仙台市市民文化事業団コンクール推進課 (Tel. 022-727-1872) までお問い合わせください。

●ローソンチケット Lコード ヴァイオリン部門:26661 ピアノ部門:26662

電話予約 0570-000-407 (オペレーター予約10:00～20:00受付)、 0570-084-002 (自動音声24時間)

店頭取扱 ローソン、ミニストップ各店

WEB <http://l-tike.com/>

●チケットぴあ Pコード:284-653 (両部門共通)

電話予約 0570-02-9999 (自動音声24時間)

窓口 全国のチケットぴあ (藤崎、イービーズ、八文字屋書店泉店 他)、セブン-イレブン、サークルK・サンクス各店

WEB <http://w.pia.jp/t/simc/>

●仙台三越 ●日立システムズホール仙台 (仙台市青年文化センター) ●イズミティ21

●SIMC公式サイト: <http://simc.jp/simc/compe/ticket/>

※仙台市市民文化事業団友の会 (年会費1,000円) の入会方法詳細は、仙台市市民文化事業団総務課 (Tel.022-727-1875) までお問い合わせください。

♪ 編集後記 ♪

ボランティアに応募して、2回目のコンクール。前回とは、また違った役割も自覚しつつ、楽しく乗り切りたいと思います。(岡)

震災から5年。うれしいとき、悲しいとき、いつも音楽がかたわらにある街。仙台の誇りです。(吾)

仲間と新しい企画を推進していけることが嬉しい毎日。第6回も、心に残るコンクールエピソードがたくさん起こりそうな予感がします。(kuri)

第6回仙台国際音楽コンクールも出場者も発表となり、いよいよという感じがしてまいりました。また今回のコンチェルト発行から新しいスタッフが、編集に加わりました。どうぞ宜しくお願いします。(清)

はじめてのコンクール体験ですので可能な限り会場に出かけたいと思います。(早)

新メンバーの皆さんも即戦力として活動していただいています。第6回コンクールにむけて今後の活動にもご期待ください。(事務局石)

ボランティアの皆さんの意欲で今回も充実した内容のコンチェルト。多くの皆様に仙台国際音楽コンクールを楽しんでいただければと思います。(事務局松)

発行：第6回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

【問い合わせ】 仙台市市民文化事業団コンクール推進課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: <http://www.simc.jp/>